

チャクマ語版・ミナ「ニワトリを数えておけ」

藤原敬介

帝京科学大学

主要語句：チャクマ語、ミナ、テキスト

1 はじめに

1.1 資料について

本稿では、南アジアで有名なアニメ・ミナ^{注1}について、チャクマ語 (ISO 639-3 ccp) による翻案をとりあげる。とりあげるのは、マルマ語版の第1話「ニワトリを数えろ」をとりあげた藤原 [2022] にひきつづき、チャクマ語版の第1話「ニワトリを数えろ」(<https://www.youtube.com/watch?v=QUgIBkBrW4c>: 2023年1月28日確認) である。クレジットタイトルから判断すると、チャクマ語版はバングラデシュで作成されている。

2 表記上の注意

本稿であつかうチャクマ語はチッタゴン丘陵の中心地であるランガマティ地方あるいはカグラチョリ地方のチャクマ語である。本稿は基本的にはカグラチョリ地方の南に位置するロッキチョリ地方出身の話者 (SC さん。1970年代生) に協力をあおぎ、かきおこしをしている。したがって、動画本来の発音とは異なるかきおこしをしている箇所があるかもしれないことをおことわりしておく。

2.1 チャクマ語音韻論の概要

本稿におけるチャクマ語は筆者による簡易音声表記である。チャクマ語の音韻論については藤原 [2019] であつかったところであるけれども、ここで主要な点を列記しておく。

1. チャクマ語の子音音素は /p, b, t, d, c [tʃ], j [dʒ], k, g, m, n, ŋ, r, l, y/ である。

(a) /p/ は語頭では [p̚] である。語末では [pʰ] である。

(b) /c/ は語頭では [s] である。これを本稿では簡易音素表記として s であらわす。

例: /caná/ saná ‘see.VN’

(c) /k/ は語頭では [h] である。語末では [kʰ] である。語頭の [h] を本稿では簡易音素表記として h であらわす。

例: /kuró/ huró ‘chicken’

(d) /g/ および /ŋ/ は母音間でしばしば消失する。

例: /madá=(g)ún/ [madáyún] ~ [madáún] ‘head=PL.DEF’

2. チャクマ語の母音音素は /a, ε, e, i, ɔ, o, u/ である。

^{注1} ミナの概要については藤原 [2021] を参照。

- (a) チャクマ語において長母音は弁別的ではない。
- (b) チャクマ語に二重母音は存在しない。
- (c) 母音が連続しているばあい、基本的には/g/や/ŋ/が消失したためである。
ただし、語源的に存在した h が消失した結果、母音が連続しているようにみえることもある。

例: sóor ‘city’ < Persian shahr

- (d) 鼻母音は音素的であるけれども、機能負担量はおおくない。

3. チャクマ語のアクセントは高 (H) と低 (L) が弁別的である。

- (a) 高アクセントをになう母音に先行する子音が無声閉鎖音であるとき (実質的には/t/のみ)、帯気性をおびる傾向にある。

例: /tʰ/ [tʰ] ~ [tʰɛ] ‘then’

- (b) 高アクセントは語源的には有気音または s, ś, š に由来することがおおい。

2.2 連声

チャクマ語に観察される主要な連声は次のとおりである。

1. 有声交替 (voicing alternation) : 無声無気阻害音は母音間で対応する有声阻害音になる。有声交替していることがあきらかなばあいには、対応する無声音の下に_vをつけてあらわす。
例: ret=ot ‘night=LOC’
2. 重子音化 (gemination) : 阻害音が連続するとき、おなじ子音が連続してあらわれる。チャクマ語における子音連続は重子音が原則である。重子音化にかかわるおもな小辞は、名詞化標識の=te、定辞の=póや=kán、複数標識の=kún などである。
3. アクセントの同化と異化: チャクマ語のアクセントには以下にしめす同化と異化がある。これらの規則は、いずれも再帰的に適用される傾向にある。
 - (a) アクセントの同化: 高アクセントの音節に低アクセントの音節が後続するとき、低アクセントの音節が高アクセントの音節に変化する。
例: mɛdám ‘madame’ + =ɛ ‘=AGT’ > mɛdám=ɛ ‘madam=AGT’
 - (b) アクセントの異化: 高アクセントをになう音節に高アクセントの音節が後続するとき、後続する方の高アクセントの音節が低アクセントの音節に変化する。
例: át ‘hand’ + =kán ‘=DEF’ > át=tan ‘hand=DEF’
ただし、LH に H がつくとき、LHL とはならず、LHH である。
例: madá ‘head’ + =bó ‘=DEF’ > madá=bó ‘head=DEF’

3 本文と語釈

(1) 0:00:44 タイトル

huró=(g)ún guni tó!

chicken=PL count.PRF.PTCP put.PRS.IMP

「ニワトリを数えておけ」

(2) 0:00:50 こどもたち

utton pek=é mek=ε mek=ε mek=ul=ó deba=t tol=ε.

fly.3.PL.PRS.CONT bird=AGT cloud=LOC cloud=LOC cloud=DEF=GEN sky=LOC place.under=LOC

「飛んでいるよ、鳥が、雲々の空の下のところで」

注 1 文の主語である *pek=é* ‘bird=AGT’ は、複数形の標識が明示されていない。しかし、意味的には集合的な名詞であり、複数の鳥をあらわしている。そのため、動詞は複数形で対応している。

注 2 場所格標識は一般的には=(o)t である。ただし、ときに=ε ももちいられる。使用される条件は不明である。なお、この=ε は、おそらくはバングラ語の場所格標識である=e の影響による。

注 3 この歌はチャクマ人のあいだでは有名な歌である。作詞は Amar Shanti Chakma 氏、作曲は Ranjeet Dewan 氏である。最初の一文から ‘Utton Pege Meghe Meghe’ という題名で知られている。この題名で検索すれば、YouTube などできざまな動画がみられる。

(3) 0:00:56 こどもたち

mør poran=án jedo magé tará logé logé.

1.SG.GEN heart=DEF go.3.SG.PST.HBT want.3.SG.PRS they with with

「私の心は行きたがっている、彼ら（鳥たち）と一緒に」

注 1 「V したい」という表現においては、「したい」を意味する動詞の直前に、V を意味する動詞の習慣過去形が先行する。したがって *jedo magé* ‘go.3.SG.PST.HBT want.3.SG.PRS’ という形式があらわれている。

注 2 一般に動詞の基本形は動名詞の形式である。*magé* ‘want.3.SG.PRS’ については、もしも動名詞の形式があるとしたら *magá* が予想される。しかし、そのような形式は確認されていない。

(4) 0:01:02 こどもたち

ser=ó hitte nanan pek=é uri uri git gadón.

four=GEN direction various bird=AGT fly.SEQ fly.SEQ song sing.3.PL.PRS.CONT

「四方をいろいろな鳥が飛んで、飛んで、歌を歌っている」

(5) 0:01:06 ミナ

ʃ, ikkúnú guro=ún=ór hɔdá sún!

INTJ just.now child=PL=GEN story listen.2.SG.PRS.IMP

「シー、今こどもたちの話を聞いて!」

注 ʃ はチャクマ語の音素ではない。「しずかにしなさい」という意味の間投詞として使用されている。

(6) 0:01:12 こどもたち

jeduŋ se=lé jey nɔ parɔŋ, tará ɔgɛ ɔgɛ.

go.1.SG.PST.HBT want=COND go.SEQ not be.able.to.1.SG.PRS 3.PL with with

「行きたくても、行けない、彼らと一緒に」

(7) 0:01:17 こどもたち

mɔ(r) pɔran=án jedɔ magé tará ɔgɛ ɔgɛ.

1.SG.GEN heart=DEF go.3.SG.PST.HBT want.3.SG.PRS 3.PL with with

「私の心は行きたがっている、彼らと一緒に」

(8) 0:01:22 こどもたち

uttɔn pek=é mɛk=ɛ mɛk=ɛ mɛk=ul=ó deba=t tɔl=ɛ.

fly.3.PL.PRS.CONT bird=AGT cloud=LOC cloud=LOC cloud=DEF=GEN sky.LOC place.under=LOC

「飛んでいるよ、鳥が、雲々の空の下のところで」

(9) 0:01:27 こどもたち

mɔ(r) pɔran=án jedɔ magé tará ɔgɛ ɔgɛ.

1.SG.GEN heart=DEF go.3.SG.PST.HBT want.3.SG.PRS 3.PL with with

「私の心は行きたがっている、彼らと一緒に」

(10) 0:01:31 先生

guro=(g)ún, tɔmáré ikkiné ikkó pɔjǰón súnájɔr.

child=PL 2.PL.ACC now one.DEF tale hear.CAUS.1.SG.PRS.CONT

「みなさん、君たちに今ひとつの昔話をきかせます」

注 *guro=(g)ún* ‘child=PL’ は直訳すれば「こどもたち」となるけれども、ここでは「こどもたち」への呼びかけであるから「みなさん」と訳した。

(11) 0:01:36 先生

bálók bálók dín age, elák=ké iggó raja ar rani.

many many day before be.3.PL.PST=NMLS one.DEF king and queen

「昔々、いたのです、一人の王と王妃が」

注 1 *elák=ké* < *elák=te* ‘be.3.PL.PST=NMLS’ である。=te は本来は低アクセントであるけれども、先行する高アクセントの影響により、高アクセントに変化している。

注 2 名詞化標識の=te ‘=NMLS’ は、バングラ語にはないチャクマ語の特徴である。文の述語としてあらわれるばあいには、日本語の「のだ」文に相当するようにおもわれる。本稿の文にはでてこないけれども、名詞修飾節を形成することもできる。このとき、動詞が人称と時制に応じて変化する点も、他のインド・アーリア語にはあまりみられない特徴である。

¶ ejét=té helle ‘come.3.SG.PRS.CONT=NMLS one.day.before.or.after.today’ 「明日(来る日)」

¶ ham gojjé=dé manúc ‘work do.3.SG.PRS.PRF=NMLS man’ 「仕事をした人」

なお、同様の形態素による同様の特徴がバングラ語チッタゴン方言にもみられる。

注 3 名詞化標識=te の来源については、3人称単数代名詞 te かもしれない。チベット・ビルマ系のノス・イ語では、指示詞に由来する3人称代名詞が名詞化標識として使用される例がある [Liu & Gu 2011]。

標準的なバングラ語で場所格をあらわす=te や不定詞の語尾である=te と関係している可能性もある。Učida [1970: 55] によれば、バングラ語チッタゴン方言で動詞につく-te は非現実をあらわす語尾-t に具格の-e が付加したものではないかという。ただし、本稿でいう名詞化用法の-te の用例を、Učida [1970] では確認できていない。

なお、チッタゴン丘陵の少数民族のあいだで共通語となっているマルマ語において、指示語に de がある。この de は、動詞文の直後に付加することがあり、チャクマ語のような名詞化標識ではないけれども、形式的にはチャクマ語と似た構文をとっているようにみえることがある。このような事情も、チャクマ語において=te が多用される一因であるかもしれない。

注 4 iggó < ek ‘one’ + =bó ‘=DEF’ である。

(12) 0:01:40 先生

tará elák=ké húp súḳ=ε, hintu súḳ=ε té=lé hi óbó?

3.PL be.3.PL.PST=NMLS very happy=ADV but happy=ADV stay=COND what be.3.SG.FUT
「彼らはとても幸せだったのですが、幸せなら、何があるのでしょうか?」

(13) 0:01:46 先生

tará húp=i duk=ót tédák.

3.PL very=EMPF unhappy=LOC stay.3.PL.PST.HBT
「彼らはとても不幸でした」

(14) 0:01:48 先生

tará=r bana di=bé puo.

3.PL=GEN only two=DEF son
「彼らにはただ二人の息子がいました」

(15) 0:01:49 先生

hɔnɔ jí ney.

any daughter NEG.exist

「どんな娘もありません」

注 *hɔnɔ* は、変種によっては *honó* と発音されることもある。

(16) 0:01:50 先生

ɛk reɬ=ɔt ɔlɔ hi?

one night=LOC be.3.SG.PST what

「ある夜、何があったでしょう?」

(17) 0:01:52 先生

bɔr ɛk=kán jór eccé.

big one=DEF rain come.3.SG.PRS.PRF

「おおきな一つの雨が来ました」

(18) 0:01:53 先生

ikkó sigon mile só raj+gór=ót e=néy, adikké gorí daɣer=rí.

one.DEF small girl sibling king+house=LOC come=SEQ suddenly do.PRF.PTCP call.3.SG.PRS.CONT=VEN

「一人のちいさな女の子が、王宮にきて、突然、呼んできます」

注 *mile* は、変種によっては *mile* と発音されることもある。

(19) 0:01:58 先生

bídíré sómíbár de!

place.inside enter.PTCP give.2.SG.PRS.IMP

「中へ入れてください!」

(20) 0:02:00 先生

hó=déy, mile=bó hi hóyé?

say.2.SG.PRS.IMP=SFP.IMP girl=DEF what say.PRS.PRF

「いってみなさい、その女の子は何をいったか?」

(21) 0:02:05 ミトウ

mɔré gór=ɔ bídíré bóró!

1.SG.ACC house=GEN place.inside make.enter.2.PL.PRS.IMP

「ワタシヲイエノナカヘイレテ!」

(22) 0:02:10 生徒

sá=déy, sá=déy, (ik)kó tɔdek.

watch=EMPF watch=EMPF one.DEF parrot

「見なよ、見なよ、一羽のオウムだ」

注 *sá=déy* は *sá=dey* のようにもきこえる。

(23) 0:02:21 ミナ

mitú, tuy hi legápɔrá sí(g)ibar sác?

PSN 2.SG what writing.reading study.PTCP want.2.SG.PRS

「ミトウ、お前は勉強したいの?」

注 *legápɔrá* は *legápɔra* のように発音されることもある。

(24) 0:02:26 ミナ

muy tɔré sígem.

1.SG 2.SG.ACC teach.1.SG.FUT

「私がお前に教える」

(25) 0:02:32 ミナ

accá hó=déy, mitú.

OK say.2.SG.PRS.IMP=SFP.IMP PSN

「はい、いいなさい、ミトウ」

(26) 0:02:33 ミナ

mɔ naɲ=án mitú.

1.SG.GEN name=DEF PSN

「私の名前はミトウ」

注 1 *mɔ* は本来は *mɔr* であるけれども、語末の *-r* はしばしば脱落する。

注 2 *naɲ* ‘name’ は *nam* ともいう。

(27) 0:02:34 ミトウ

mɔ(r) naɲ=án mitú.

1.SG.GEN name=DEF PSN

「オレナマエミトウ」

(28) 0:02:39 ミナ

ba, ba.

INTJ INTJ

「よしよし」

(29) 0:02:44 ミトウ

mitú, mitú, mɔ naɲ=án mitú, mɔ naɲ=án mitú.

PSN PSN 1.SG.GEN name=DEF PSN 1.SG.GEN name=DEF PSN

「ミトウ、ミトウ、オレナマエミトウ、オレナマエミトウ」

(30) 0:02:55 村長

helle reṭ=ɔt sur=bó mɔ ságól=lo nejeyé=góy, ní.

yesterday night=LOC thief=DEF1.SG.GEN goat=DEF bring.3.SG.PRS.PRF=ANDV INTJ

「昨日の夜、泥棒が私の山羊をつれていったんだよ」

注 *helle* は「発話時点を基準として一日はなれた時点」というのが中心的な意味である。したがって、過去のことであれば「昨日」、未来のことであれば「明日」となる。

(31) 0:03:03 村長

ní, tík age, muy jaɲɔr.

INTJ OK exist.3.SG.PRS 1.SG go.1.SG.PRS.CONT

「んー、よし、行こう」

注 *age* は、本来は *agé* であるけれども、高アクセントの語が先行すると *age* になることがある。

(32) 0:03:06 村長

tuy ekkəna úç=ɛ téç!

2.SG a.little careful=ADV stay.2.SG.FUT.IMP

「お前はすこし注意していなさい」

(33) 0:03:07 村長

sur=bó=ré dóra poribo.

thief=DEF=ACC catch.VN should.3.SG.FUT

「泥棒をつかまえないといけない」

注 *poribo* は、本来は *pora* 「落ちる」という動詞の三人称単数未来形であるけれども、「～しなければならない」という意味で多用される。

(34) 0:03:10 父

sí=yan gorím=dɔ, harbajje.

that=DEF do.1.SG.FUT=TOP village.master

「それをしますよ、村長」

(35) 0:03:11 父

jú ju.

hello hello

「さようなら」

注 *jú* はチャクマ語でもっとも多用される挨拶ことばである。状況によって「こんにちは」とも「さようなら」ともなる。二回つづけて使用されることが多い。二回目の発音は高アクセントのあとになるので低アクセントで発音される傾向にある。

(36) 0:03:14 父

sí=yan mina éđókkɔn lagilo hia?

that=DEF PSN this.much be.needed.3.SG.PST why

「それに、ミナ、これほど時間がかかったのは、どうして？」

(37) 0:03:16 ミナ

mitú=ré hɔdá hɔná sígɔt=te.

PSN=ACC language say.VN teach.3.SG.PRS.CONT=NMLS

「ミトゥにことばを話すのを教えているの」

注 *sígɔt=te* ‘teach.3.SG.PRS.CONT=NMLS’ のように動詞のあとにつく *=te* は名詞化標識であり、日本語でいえば「のだ」文のような役割をはたすようにおもわれる。これに類似した構文はバングラ語には存在しない。ただし、バングラ語チッタゴン方言には形式も機能も類似したものがみられる。

(38) 0:03:17 母

mina, andaç=ɛ sómóy bɔrbat nɔ goric!

PSN speculation=ADV time waste not do.2.SG.FUT.IMP

「ミナ、憶測で時間を無駄にしないで」

(39) 0:03:24 ミナ

ma, sún, mɔ naŋ=án mitú!

mother listen.2.SG.PRS.IMP 1.SG.GEN name=DEF PSN

「お母さん、きいて、「私の名前はミトゥ！」」

(40) 0:03:28 ミトゥ

mɔ naŋ=án mitú!

1.SG.GEN name=DEF PSN

「オレナマエミトゥ！」

(41) 0:03:30 両親

ba.

INTJ

「あー」

(42) 0:03:31 ラジュ

hi uccó gɔré=pará.

what high do.3.SG.PRS=alike

「なんて楽しそうなんだろう」

注 1 *uccó gɔré* ‘high do.3sg.PRS’ は「楽しむ」という熟語である。

注 2 *=pará* は定動詞に後続して「～のようなもの」という意味をあらわす。

(43) 0:03:33 父

raju, ikkul=ɔt hi síkkoc, pɔranne.

PSN school=LOC what learn.2.SG.PRS.PRF darling

「ラジュ、学校で何をまなんだ、お前」

注 1 *pɔranne* は愛するものに対する呼びかけとしてもちいられる。

注 2 SC さんの発音では *síkkoc* であるけれども、元の動画では *síkkɔc* であるかもしれない。方言によって、どちらの発音もきかれうるという。

(44) 0:03:35 ラジュ

balɔk=káni síkkey.

many=DEF.PL learn.1.PL.PRS.PRF

「たくさん学びました」

注 *balɔk=káni* は、通常は *bálók=káni* と発音される。

(45) 0:03:38 ラジュ

muy ikkiné mə nam=án ligí paɔɔŋ.

1.SG now 1.SG.GEN name=DEF write.SEQ can.1.SG.PRS

「ぼくは今自分の名前をかける」

(46) 0:03:40 父

húp dol hədá.

very beautiful story

「とてもよい話だ」

(47) 0:03:42 父

ikkul=ɔt tuy mən diy ləgápɔrá goríc.

school=LOC 2.SG heart give.SEQ writing.reading do.2.SG.FUT.IMP

「学校で集中して勉強しなさい」

注 *mən diy* ‘heart give.SEQ’ は「集中して」という意味の熟語である。

(48) 0:03:45 ミナ

ba, muy=ó ikkul=ɔt ləgá sígim.

INTJ 1.SG=too school=LOC write.VN learn.1.SG.FUT

「あ、私も学校で勉強する」

(49) 0:03:49 父

na, mina, tuy gór=ót təc, tɔr ma lɔgé.

not PSN 2.SG house=LOC stay.2.SG.FUT.IMP 2.SG.GEN mother with

「いや、ミナ、お前は家にいなさい、母さんと一緒に」

注 *tɔr ma* ‘2.SG.GEN mother’ は *tomma* のようにきこえる。

(50) 0:03:53 ラジュ

mə logé jey parɛ.

1.SG.GEN with go.SEQ can.3.SG.PRS

「ぼくと一緒にいける」

(51) 0:03:55 父

mile=gún=ór ikkul=ɔt jana dɔrkar ney.

woman=PL=GEN school=LOC go.VN need NEG.exist

「女性たちに学校に行く必要はない」

注 所有構文では意味上の主語が属格で表現される。

(52) 0:03:57 ミナ

hintu muy=dó legápɔrá sígibar sáj, ba.

but 1.SG=TOP writing.reading learn.PTCP want.1.SG.PRS father

「だけど、私は勉強したい、父さん」

注 =dó ‘=TOP’ の母音はバングラ語からの対応からすれば *o* であることが予想される。

しかし、*ɔ* である。

(53) 0:03:59 父

hehehe.

INTJ

「ハハハ」

注 笑い声は *hehehe* のように聞こえる。しかし、もしも書くとすれば *hahaha* のように書くそうである。

(54) 0:04:00 母

tuy sígibe=de ranábara ar gór=ó ham.

2.SG learn.2.SG.FUT=NMLS cooking and house=GEN work

「お前が学ぶのは、料理と家事」

(55) 0:04:03 ミナ

muy legápɔrá sígibar sáj, ma.

1.SG writing.reading learn.PTCP want.1.SG.PRS mother

「私は勉強したい、母さん」

(56) 0:04:05 母

hittéy mina, iyení hittéy laget=tɛ?

why PSN this why be.needed.3.SG.PRS.CONT=NMLS

「どうしてミナ、これはどうして必要なの?」

(57) 0:04:08 母

ekkēna paní an=doy=déy!

a.little water bring=ANDV=SFP.IMP

「ちょっと水をとってきてよ」

(58) 0:04:19 ミトウ

鳥のなきごえ

(59) 0:04:46

このあたりからしばらく夢の中

(60) 0:05:53 ラジュ

mina, tuy ikkul=ɔt gelé bári gɔm ódó.

PSN 2.SG school=LOC go.COND very good be.3.SG.PST.HBT

「ミナ、ミナが学校にいけば、とてもよかっただろう」

(61) 0:05:57 ミナ

tuy ja, raju!

2.SG go.2.SG.PRS.IMP PSN

「お前は行きなさい、ラジュ」

(62) 0:06:05 ニワトリ

なきごえ

(63) 0:06:08 ミトウ

なきごえ

(64) 0:06:11 ミナ

mitú, tuy ikkul=ɔt ja=goy=déy!

PSN 2.SG school=LOC go.2.SG.PRS.IMP=ANDV=SFP.IMP

「ミトウ、お前は学校にいつてきなさい」

(65) 0:06:13 ミトウ

「はい」というなきごえ

(66) 0:06:15 ミナ

ɔ, tuy ikkul=ɔt ja, ar medám=é hi sígay, sí=yan hujór

INTJ 2.SG school=LOC go.2.SG.PRS.IMP and madame=AGT what teach.3.SG.PRS that=DEF asking

gorí ay=goy!

do.PRF.PTCP come.2.SG.PRS.IMP=ANDV

「おー、ミトウ、学校にいきなさい、そしてマダムが何を教えるか、それを尋ねてきなさい」

(67) 0:06:19 ミナ

té sí=yan mǎré síge paribi.

then that=PL 1.SG.ACC teach.PTCP can.2.SG.FUT

「そしたら、それらを私に教えることができる」

(68) 0:06:23 ミナ

tǒdek=kún=é hi poríbát=téy súníbát=téy nǒ sán?

parrot=DEF=AGT what read.PTCP=for listen.PTCP=for not want.3.PL.PRS

「オウムたちは読んだり聞いたりしたくないの?」

(69) 0:06:25 ミトゥ

poríbár súníbár nǒ san.

read.PTCP listen.PTCP not want.3.PL.PRS

「ヨムキクシタクナイ」

注 *nǒ san* は、本来は *nǒ sán* というべきである。

(70) 0:06:27 ミナ

lokkí mitú.

good PSN

「いい子ね、ミトゥ」

注 *lokkí* は *lókki* のようにもきこえる。この単語は、本来はヒンドゥー教の女神 *Lakṣmī* のことをさす。しかし、バングラ語と同様にチャクマ語においても、家族や親友など、甘えるように呼びかけられる相手への呼びかけ語としても使用される。

(71) 0:06:28 ミナ

tuy ja!

2.SG go.2.SG.PRS.IMP

「お前、行って!」

(72) 0:06:30 ミトゥ

手をひろげ「しょうがないなあ」という様子

(73) 0:06:39 先生

ikkiné amí duy=ǎr namata sígibɔŋ.

now 1.PL two=GEN multiplication learn.1.PL.FUT

「今、私たちは二ノ段の掛け算を学びましょう」

(74) 0:06:48 こどもたち

duy ɛk=ɛ duy, duy dugun=ɛ ser, tin duguna sóy,...

two one=ADV two two double=ADV four three double six

「にいちがに、ににんがし、さんにながろく...」

注 1 $\varepsilon k = \varepsilon$ はバングラ語的ないいかた。チャクマ語としては $\varepsilon \dot{k} = \varepsilon$ となる。

注 2 $dugun = \varepsilon$ ‘double=ADV’ はチャクマ語の本来語、*duguna* はバングラ語からの借用語。

注 3 二の段の掛け算において *tin duguna sóy* ‘three double six’ 「さんにながろく」は、*duy tingun = \varepsilon sóy* ‘two triple=ADV six’ 「にさんにながろく」のように表現することが期待される。しかし、バングラ語でも「さんにながろく」のような表現をする。

注 4 掛け算の表現方法は、バングラ語でもチャクマ語でもおなじである。具体的には下表のようになっている。不規則な部分を太字でしめす。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	1*1	1*2	1*3	1*4	1*5	1*6	1*7	1*8	1*9
2	2*1	2*2	3*2	4*2	5*2	6*2	7*2	8*2	9*2
3	3*1	3*2	3*3	3*4	3*5	3*6	3*7	3*8	3*9
4	4*1	4*2	3*4	4*4	4*5	4*6	4*7	4*8	4*9
5	5*1	5*2	3*5	4*5	5*5	5*6	5*7	5*8	5*9
6	6*1	6*2	3*6	4*6	5*6	6*6	6*7	6*8	6*9
7	7*1	7*2	3*7	4*7	5*7	6*7	7*7	7*8	7*9
8	8*1	8*2	3*8	4*8	5*8	6*8	7*8	8*8	8*9
9	9*1	9*2	3*9	4*9	5*9	6*9	7*9	8*9	9*9

(75) 0:06:56 先生

duy $\varepsilon k = \varepsilon$...

two one=ADV
「にいちが」

(76) 0:06:57 ラジュ

duy!

two
「に！」

(77) 0:06:58 先生

duy dugun = \varepsilon...

two double=ADV
「ににんが」

(78) 0:06:59 女の子

ser!

four
「し！」

(79) 0:07:00 先生

tin dugun=ε...

three double=ADV

「さんにか」

(80) 0:07:02 ミトウ

sóy!

six

「ロク!」

(81) 0:07:05 ラジュ

aré, ibé amá tɔdɛk=kó.

INTJ this 1.PL.GEN parrot=DEF

「あれ、これはぼくたちのオウムだ」

(82) 0:07:07 ミトウ

mɔ naŋ=án mitú.

1.SG.GEN name=DEF PSN

「オレナマエミトウ」

(83) 0:07:09 先生

bárí gɔm hədá, mitú.

very good story PSN

「とてもよい話ね、ミトウ」

(84) 0:07:22 ミナ

mitú, tuy hi síkkoc?

PSN 2.SG what learn.2.SG.PRS.PRF

「ミトウ、お前は何を学んだ」

(85) 0:07:25 ミトウ

duy ɛk=ε duy, duy duguna ser, tin duguna sóy...

two one=ADV two two double four three double six

「ニイチガニ、ニニンガシ、サンニガロク」

(86) 0:07:31 ミナ

muy parɔŋ=ŋí sáŋ=dé.

1.SG can=PQ see.1.SG=NMLS

「私ができるかどうか、見てみよう?」

注 *sáŋ=dé*は *sáŋ=ŋé*あるいは *sáŋ=gé*と発音されることもある。

(87) 0:07:34 ミナ

duy ek=ε, n...

two one=ADV FIL

「にいちが...」

(88) 0:07:35 ミトゥ

duy!

two

「ニ!」

(89) 0:07:36 ミナ

duy dugun=ε n...

two double=ADV FIL

「ににんが...」

(90) 0:07:38 ミトゥ

ser!

four

「シ!」

(91) 0:07:40 ミナ

ser.

four

「し」

(92) 0:07:41 ミナ

tin dugun=ε n... chóy.

three double=ADV FIL six

「さんにが... ろく」

注 *chóy* はバングラ語の形式。チャクマ語としては *sóy* である。

(93) 0:07:45 ミナ

duy ek=ε duy, duy duguna n...

two one=ADV two two double FIL

「にいちがに、ににんが...」

(94) 0:07:49 ミトゥ

ser!

four

「シ!」

(95) 0:07:51 ミナ

tin dugun=ε chóy.

three double=ADV six

「さんにながろく」

(96) 0:07:53 ミナ

mitú, muy sígi púreyon.

PSN 1.SG learn.SEQ finish.1.SG.PRS.PRF

「ミトゥ、私は学び終わった」

(97) 0:07:58 ミナ

duy ek=ε duy, duy dugun=ε ser, tin duguna sóy, n...

two one=ADV two two double=ADV four three double six FIL

「にいちがに、ににんがし、さんにながろく...」

(98) 0:08:05 ミナ

sóy=do.

become.3.SG.PRS=TOP

「そうだ」

(99) 0:08:10 ミナ

tin duguna sóy.

three double six

「さんにながろく」

(100) 0:08:17 ミナ

sóy.

six

「ろく」

(101) 0:08:53 ミナ

ar ek=bar sáη=gé.

and one=time see.1.SG.PRS=NMLS

「もう一回してみよう」

(102) 0:08:55 ミナ

tin dugun=ε... aré, aróggó huró hudú geló?

three double=ADV INTJ more.one.DEF chicken where go.3.SG.PST

「さんになが... あれ、もう一羽のニワトリはどこに行った?」

注 aróggó < aró ‘more’ + oggó ‘one.DEF’ である。

(103) 0:09:01 ミトウ

huró! huró!

chicken chicken

「ニワトリ! ニワトリ!」

(104) 0:09:03 ミナ

éy! éy! sur! sur! sur!

INTJ INTJ thief thief thief

「エイ! エイ! 泥棒! 泥棒! 泥棒!」

(105) 0:09:07 父

hi óye, mina?

what become.3.SG.PRS.PRF PSN

「どうした、ミナ?」

(106) 0:09:08 ミナ

ikkú sur=ε amá huró=bó nejeyé=góy=dé.

now thief=AGT 1.PL.GEN chicken=DEF bring.3.SG.PRS.PRF=ANDV=NMLS

「今泥棒が私たちのニワトリをもっていったの」

注文末の=déは、動画ではほとんど=di のように聞こえる。

(107) 0:09:10 父

sur! sur!

thief thief

「泥棒! 泥棒!」

(108) 0:09:15 ミトウ

sur! sur!

thief thief

「ドロボウ! ドロボウ!」

(109) 0:09:16 父

sur! sur!

thief thief

「泥棒! 泥棒!」

(110) 0:09:22 村人

dójjó! dójjó! dójjó!

catch.2.PL.FUT.IMP catch.2.PL.FUT.IMP catch.2.PL.FUT.IMP

「捕まえろ! 捕まえろ! 捕まえろ!」

(111) 0:09:27 ミナ

dójjó!

catch.2.PL.FUT.IMP

「捕まえろ!」

(112) 0:09:34 村人 2

dóró!

dóró!

sur=bó=ré dóró!

dóró!

catch.2.PL.PRS.IMP catch.2.PL.PRS.IMP thief=DEF=ACC catch.2.PL.PRS.IMP catch.2.PL.PRS.IMP

「捕まえろ! 捕まえろ! その泥棒を捕まえろ! 捕まえろ!」

(113) 0:09:42 村人 2

dóró!

dóró!

catch.2.PL.PRS.IMP catch.2.PL.PRS.IMP

「捕まえろ! 捕まえろ!」

(114) 0:09:46 村長

éy, éy, éy=dó séy sur=bó!

this this this=TOP that thief=DEF

「これ、これ、これがその泥棒だ!」

注 éy ‘this’ は通常は低アクセントの ey である。しかし、=dó ‘=TOP’ が後続するときには高アクセントの éy となり、後続する=dó ‘=TOP’ を低アクセントにする。

(115) 0:09:49 村長

dójjó!

dójjó!

dójjó!

dójjó!

sur=bó=ré

catch.2.PL.FUT.IMP catch.2.PL.FUT.IMP catch.2.PL.FUT.IMP catch.2.PL.FUT.IMP thief=DEF=ACC

dójjó!

dójjó!

catch.2.PL.FUT.IMP catch.2.PL.FUT.IMP

「捕まえろ! 捕まえろ! 捕まえろ! 捕まえろ! 泥棒を捕まえろ! 捕まえろ!」

(116) 0:10:00 ミトウ

sur! sur!

thief thief

「ドロボウ、ドロボウ」

(117) 0:10:02 泥棒

「あー」

(118) 0:10:25 村長

mina, ecce td=déy sur=bó=ré dórí pajjón=gé.

PSN today 2.SG.GEN=for thief=DEF=ACC catch.SEQ can.1.PRS.PRF=NMLS

「ミナ、今日はお前のおかげでその泥棒をつかまえることができたよ」

(119) 0:10:28 父

huró=bó=ré neja=de sur=bó=ré dekkóc?

chicken=DEF=ACC bring=NMLS thief=DEF=ACC see.2.sg.PRS.PRF

「ニワトリをつれていったその泥棒を見たのか?」

(120) 0:10:31 ミナ

na, nó dégɔŋ.

not not see.1.SG.NEG.PRS.PRF

「いいえ、みなかった」

注 現在完了形の否定は、形式的には現在形を否定したものとなる。ただし、否定辞は低アクセントではなく高アクセントの *nó* となる。そして、高アクセントの否定辞の影響により、現在形の *deɣɔŋ* が現在完了形の否定としては *dégɔŋ* となっている。

(121) 0:10:33 母

hēgērí hárasótté bujílé?

how so.easily understand.2.SG.PST

「どのようにはやくわかった?」

(122) 0:10:35 ミナ

muy ek=kán ɔŋkɔ occóŋ=gé.

1.SG one=DEF calculation do.1.SG.PRS.PRF=NMLS

「私は一つ計算したの」

注 *occóŋ=gé* は *gojjóŋ=gé* とも発音される。

(123) 0:10:38 父

tuy hi ɔrót=té hóyóc=cé?

2.SG what do.3.SG.PRS.CONT=NMLS say.2.SG.PRS.PRF=NMLS

「お前は何をしているところといったんだ?」

(124) 0:10:39 ミナ

muy amá huró=gún sékkéne guni sáŋót=té.

1.SG 1.PL.GEN chicken=PL.DEF at.that.time count.SEQ see.1.SG.PRS.CONT=NMLS

「私は、私たちのニワトリたちをそのとき数えてみようとしていたの」

(125) 0:10:41 村長

wá, baba!

INTJ INTJ

「あー、おどろいた!」

(126) 0:10:43 村長

tuy to jí=bo=re ikkul=ɔt di=ney bári gəm ham gojjóc.

2.SG 2.SG.GEN daughter=DEF=ACC school=LOC give.PRF.PTCP=SEQ very good work do.2.SG.PRS.PRF

「お前はお前の娘を学校にやって、とてもよい仕事をした」

(127) 0:10:46 父

ɔ, hi ɔlɔ=dé?

INTJ what become.3.SG.PST=NMLS

「おー、何がおきたのか」

(128) 0:10:48 おばあさん

ɔ, mile=bó pəráná húp gəm.

INTJ girl=DEF make.learn.VN very good

「この女の子に勉強させるのはとてもよい」

(129) 0:10:51 おばあさん

mɔ jí=bo=t=tun ek=kán huró hámar agé.

1.SG.GEN daughter=DEF=LOC=ABL one=DEF chicken farm exist.3.SG.PRS

「私の娘のところ(から)一つのニワトリの牧場がある」

(130) 0:10:54 父

ɔy, ɔy.

become.3.SG.PRS become.3.SG.PRS

「はい、はい」

(131) 0:10:55 おばあさん

te ar mɔ pu=bó mərə́ tɛŋa dɔn.

3.SG and 1.SG.GEN son=DEF 1.SG.ACC money give.3.PL.PRS

「彼女と私の息子が私にお金をくれます」

(132) 0:10:57 おばあさんの娘

muy=ó ikkul=ɔt jeyóŋ.

1.SG=too school=LOC go.1.SG.PRS.PRF

「私も学校に行きました」

(133) 0:10:58 おばあさんの娘

síttun hɔdókki síkkoŋ.

there.ABL some learn.1.SG.PRS.PRF

「そこから、いくらか学びました」

注 *hɔdókki* は *hɔdók* ‘how.much’ に *hi* ‘what’ がついたものである。疑問語が不定語としても使用される例である。

(134) 0:11:00 おばあさんの娘

ikkunú puo+sá=un=ɔɾɛ ɡɔm=ɛ dalé séy paɾɔŋ.

now son+ELAB(?)=PL.DEF=ACC good=ADV ELAB watch.PTCP can.1.SG.PRS

「今、こどもたちをよく見ること (世話すること) ができる」

注 *sá* は単独では意味をもたない。マルマ語の *θá* ‘son’ が借用されているかもしれないけれども、チャクマ語の中にマルマ語の単語が借用されることはすくない。

(135) 0:11:02 母

óy=ni?

become.3.SG.PRS=PQ

「そうなんですか」

(136) 0:11:04 村人

mə jí=bo páib=sóŋ poŋje.

1.SG.GEN daughter=DEF five=till read.3.SG.PRS.PRF

「私の娘は 5 年生ままで学びました」

(137) 0:11:06 村人

ikké te mɔré sidí ligí paɾɛ.

now 3.SG 1.SG.ACC letter write.PTCP can.3.SG.PRS

「今、彼女は私に手紙をかくことができる」

注 *ligí* は SC さんは *legí* という。

(138) 0:11:09 村長

n..., bek mile=ɡún=ót=tún peramarí ikkul=ɔt jana ujit.

FIL all girl=PL.DEF=LOC=ABL primary school=LOC go.VN be.appropriate

「んー、すべての女性が小学校に行くべきだ」

(139) 0:11:13 村長

aró údu páib=sóŋ pɔraná ujit.

and.more there.ALL five=till make.learn.VN be.appropriate

「そして、あちらで五年生ままでまなばせるべきだ」

(140) 0:11:16 父

óy=də ɡɔm hədá.

become.3.SG.PRS=TOP good story

「そうだね、よい話だ」

(141) 0:11:17 父

n..., mina, tuy helle=t=tún dóri ikkul=ɔt jɛbɛ.

FIL PSN 2.SG tomorrow=LOC=ABL catch.PTCP school=LOC go.2.SG.FUT

「んー、ミナ、お前は明日から学校にいきなさい」

(142) 0:11:20 ミナ

gɛccɛ hɔ́t=té?

real say.2.SG.PRS.CONT=NMLS

「本当に言っているの?」

(143) 0:11:21 父

gɛccɛ gorí hɔ́t=té, ma.

real do.PTCP say.2.SG.PRS.CONT=NMLS mother

「本当に言っているんだよ」

注 *ma* は本来は「母」という意味である。しかし、こどもに対する呼びかけとしても使用される。

(144) 0:11:23 母

muy=ó=dɔ sí=yan hɔŋ=ŋé.

1.SG=too=TOP that=DEF say.1.SG.PRS=NMLS

「私もそれを言うんですよ」

(145) 0:11:25 母

tuy jelé mɔré lɛgápɔrá síge paribi.

2.SG go.COND 1.SG.ACC writing.reading teach.PTCP can.2.SG.FUT

「お前がいけば、私に読み書きを教えられるだろう」

(146) 0:11:27 ミナ

ar, tuy mɔré ranána sígeɛ.

and 2.SG 1.SG.ACC make.cook.VN teach.2.SG.FUT

「そして、お母さんは私に料理させることを教える」

(147) 0:11:29 ラジュ

hi súk! amí ek=sómáré ikkul=ɔt jɛbɔŋ.

what happy 1.PL one=together school=LOC go.1.PL.FUT

「なんて幸せなんだ! 僕たちは一緒に学校に行く」

(148) 0:11:37 母

mina, tɔré íjɛp gɔráná sígeye, hɔnná?

PSN 2.SG.ACC calculation make.do.VN teach.3.SG.PRS.PRF who

「ミナ、お前に計算させることを教えたのは誰?」

注 *goráná* は *goraná* のようにもきこえる。

(149) 0:11:39 ミナ

ikkó sómájjé, jibé ikkul=ɔt jeyé.

one.DEF friend REL.NOM school=LOC go.3.SG.PRS.PRF

「一人の友人よ、その人が学校に行った」

(150) 0:11:42 父

hɔnná síbe, tɔ sómájjé=bo?

who that 2.SG.GEN friend=DEF

「誰だそれは、お前の友人か?」

(151) 0:11:45 ミトゥ

mɔ naŋ=áj mitú!

1.SG.GEN name=DEF PSN

「オレノナマエ、ミトゥ」

記号・略号一覧

/A/	A は音素表記
[A]	A は音声表記
(A)	A は任意の要素
A < B	A は B に由来する
A > B	A は B に変化する
+	複合語境界
=	接語境界
1, 2, 3	人称 (それぞれ 1 人称、2 人称、3 人称)
ABL (ABLative)	奪格
ACC (ACCusative)	対格
ADV (ADVerb)	副詞
ANDV (ANDative)	去辞
CAUS (CAUSative)	使役
COND (CONDitional)	条件
CONT (CONTinuous)	継続
DEF (DEFinite marker)	特定
ELAB (element of ELABorate expression)	精巧表現の構成要素
EMPH (EMPHatic)	強意
FIL (FILler)	つなぎ言葉
FUT (FUTure)	未来
GEN (GENitive)	属格
HBT (HaBiTual)	習慣
IMP (IMPerative)	命令
INTJ (INTerJection)	間投詞
LOC (LOCative)	場所格
NEG (NEGative)	否定
NMLS (NoMinaliSer)	名詞化標識
NOM (NOMinative)	主格
PL (PLural)	複数
PQ (Polar Question marker)	諾否疑問標識
PRF (PeRFect)	完了

PRS (PReSent)	現在
PSN (PerSonal Name)	人名
PST (PaST)	過去
PTCP (ParTiCiPle)	分詞
REL (RELative clause)	関係節
SG (SinGular)	単数
SEQ (SEQuential)	継起
SFP (Sentence Final Particle)	文末小辞
TOP (TOPic)	主題
VEN (VENitive)	来辞
VN (Verbal Noun)	動名詞

参考文献

- 藤原敬介. 2019. 「チャクマ語音韻論」『言語記述論集』 11: 51–102. <http://id.nii.ac.jp/1422/00003020/>
- 藤原敬介. 2021. 「マルマ語版・ミナ「私は学校がすき」」『言語記述論集』 13: 317–354. <http://id.nii.ac.jp/1422/00000912/>
- 藤原敬介. 2022. 「マルマ語版・ミナ「ニワトリを数えておけ」」『言語記述論集』 14: 211–236. <http://id.nii.ac.jp/1422/00004416/>
- Liu, Hongyong & Gu Yang. 2011. Nominalization in Nuosu Yi. In Yap, Foong Ha, Karen Grunow-Hårsta and Janick Wrona (eds.), *Nominalization in Asian languages: diachronic and typological perspectives*. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins, pp. 313–342.
- Učida, Norihiko. 1970. *Der Bengali-Dialekt von Chittagong*. Wiesbaden: Otto Harrassowitz.

(附記) 本稿は科学研究費補助金（課題番号 20K00570）による研究成果の一部である。

受理日 2023 年 4 月 11 日